

日刊自動車新聞

Nikkan Jidosha Shimbun for Digital Network

2018年(平成30年)2月2日(金曜日) [第5面 自動車整備]

連載「輝けメカニック 整備工場の人づくり」(62)

全日本ロータス同友会 「次世代自動車セミナー」



ロータス次世代自動車セミナーでは、エーミング作業を中心に実習する

全日本ロータス同友会では、昨年7月から会員工場のメカニックを対象に「ロータス次世代自動車セミナー」を開催している。自社に最新の車両が入庫した際に、正しい整備、対応ができる「次世代自動車の取り扱いができるメカニック」の養成を目指す。

同会はメカニック教育において、これまで「ロータスサービスアドバイザー」の資格認定研修などをはじめとした顧客満足(CS)の向上を目的とする研修に注力してきた。昨年12月末時点で、会員社の93・9%が取得。会員社1社1人に当たる2149人をロータスサービスアドバイザーに認定した。

今後のメカニック教育は、CSと技術力向上の2本柱を主軸に進める。昨年度、メカニックの技術対応を目的としたロータス次世代自動車セミナー研修を設定。次世代自動車の割合が2020年には半数となる見込みであることを考慮した。10ブロックで200人を対象に実施し、好評だったことから、18年度は全国の各ブロックや支部で50回、定員1千人を対象に実施する予定だ。

セミナーではトヨタ「プリウス(50系)」と三菱自「アウトランダーPHEV」を使用する。基本的には、あいおいニッセイ同和自動車研究所の講師が2人と三菱自動車整備担当者も指導に付く。丸1日、先進安全自動車(ASV)の動向やシステム作動概要を座学した後、ASVの試乗走行テストを行い、機能を体感する。メインとなるエーミングおよび作動体験は、150分かけて行う。20人の受講生を3班に分け、3、4台使用してローテーションで実習するため、一人ひとりが多くの車両で長く作業体験できる。プリウスのエーミン

グで、ミリ波レーダーや単眼カメラなどを調整する。アウトランダーでもミリ派キャリブレーション、走行キャリブレーション作業などを体験する。

ロータス次世代自動車セミナーに参加した富山県支部のメカニックは、「メーカーの方向性や世界基準で行われているCO₂削減の取り組み、燃料電池車の構造や仕組みを学ぶことができた」と業界と車両の知識を得られただけでなく「実車を使用して、レーダーやカメラを使用した衝突軽減装置の点検、調整方法を学ぶことができた」と実習内容に満足している様子。「整備内容が変化し、生き残っていくために今、何をすべきかを考える機会になった」と感想を語っている。

研修を推進する本部教育委員会は、研修での次世代自動車として、ハイブリッド車、プラグインハイブリット車、電気自動車、自動運転車を想定する。技術研修の目的は常に現在の技術を習得すること。「新たな自動車が発売されるごとに、研修内容と使用する車両も随時対応させる」としている。

(篠崎 美樹)